3　将来都市構造

将来都市構造は、東京近郊に位置する草加市が、都市としての独自性をもちつつ、市内の均衡ある発展をめざすために、望ましい都市の発展方向を明示するものです。

（1）拠点地区の形成

東武鉄道伊勢崎線の4駅を中心に商業・業務の拠点を形成するとともに、草加松原周辺や総合公園・地区公園周辺において、文化の拠点や憩いの拠点を形成していきます。

①都市核の形成

草加駅周辺を都市核として位置づけ、商業業務機能の集積を図ります。

②地域核の形成

谷塚駅、松原団地駅、新田駅の各駅周辺については、地域の文化・生活の交流拠点としての地域核として位置づけ、近隣型の商業業務機能の集積を図ります。

③文化核の形成

草加松原周辺を文化核として位置づけ、市民文化交流ゾーンにふさわしい拠点の整備と景観の形成を図ります。

④みどりの森の形成

市民の憩いの拠点として、そうか公園及び地区公園をみどりの森として位置づけ、整備を図ります。

（2）軸及びネットワークの形成

拠点地区や主要公共施設などを有機的に結びつけるため、河川や主要道路などにより、軸及びネットワークを形成していきます。

①都市軸の形成

東武鉄道伊勢崎線を中心に谷塚松原線、新田駅前旭町線、足立越谷線に囲まれたゾーンを都市核、文化核、地域核の連携を図る都市軸として位置づけ、駅周辺の商業業務機能の育成などを推進します。

②水とみどりのネットワークの形成

主要な河川や水路を水とみどりのネットワークとして位置づけ、親水空間や緑道のネットワークを形成します。

③道路･交通のネットワークの形成

主要な道路と鉄道により、道路・交通のネットワークを形成します。

（3）計画的な土地利用の誘導

東武鉄道伊勢崎線の駅周辺から徐々に市街化してきた経緯や、今後の市街地形成の方向性を踏まえて、イメージ・密度の異なる3つの住宅地や、各駅周辺の商業業務地、工業団地を擁する工業地などにより市内をゾーンで区分し、それぞれの調和がとれた土地利用を誘導します。

①商業業務地域の誘導

鉄道の各駅周辺の商業地においては、拠点的な地域として店舗、事務所、娯楽施設などを誘導します。

②都市型住宅地ゾーンの誘導

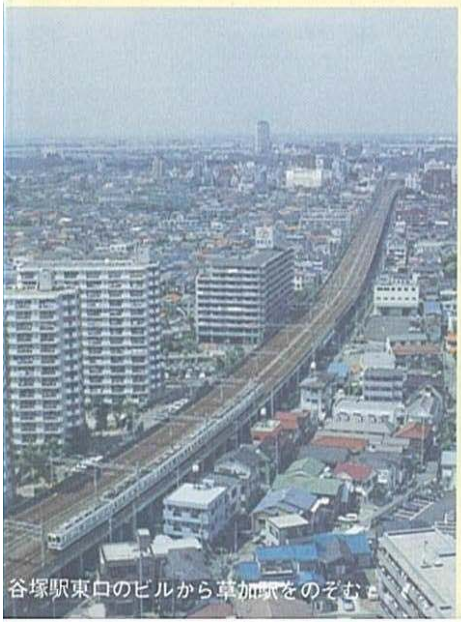
比較的駅に近い地域においては、集合住宅などの中高層住宅を中心に新しいコミュニティを基本とした住宅地の形成を図るとともに、土地利用の更新に伴う共同化などにより、公園・歩行空間などを極力確保するよう誘導します。

③一般住宅地ゾーンの誘導

多様な形式の住宅を許容しながら、全体として中低層中密度の住宅地として、良好な居住環境を誘導します。

④低層住宅地ゾーンの誘導

ある程度まとまった農地の残った周辺部では、農地の保全を図りながら、みどり豊かな低層中・低密度の良好な住宅地として誘導します。



谷塚駅東口のビルから草加駅をのぞむ

⑤工業地ゾーンの誘導

緑化の推進、公害の防止などを図り、将来の都市像に合う工業地などの形成を図ります。

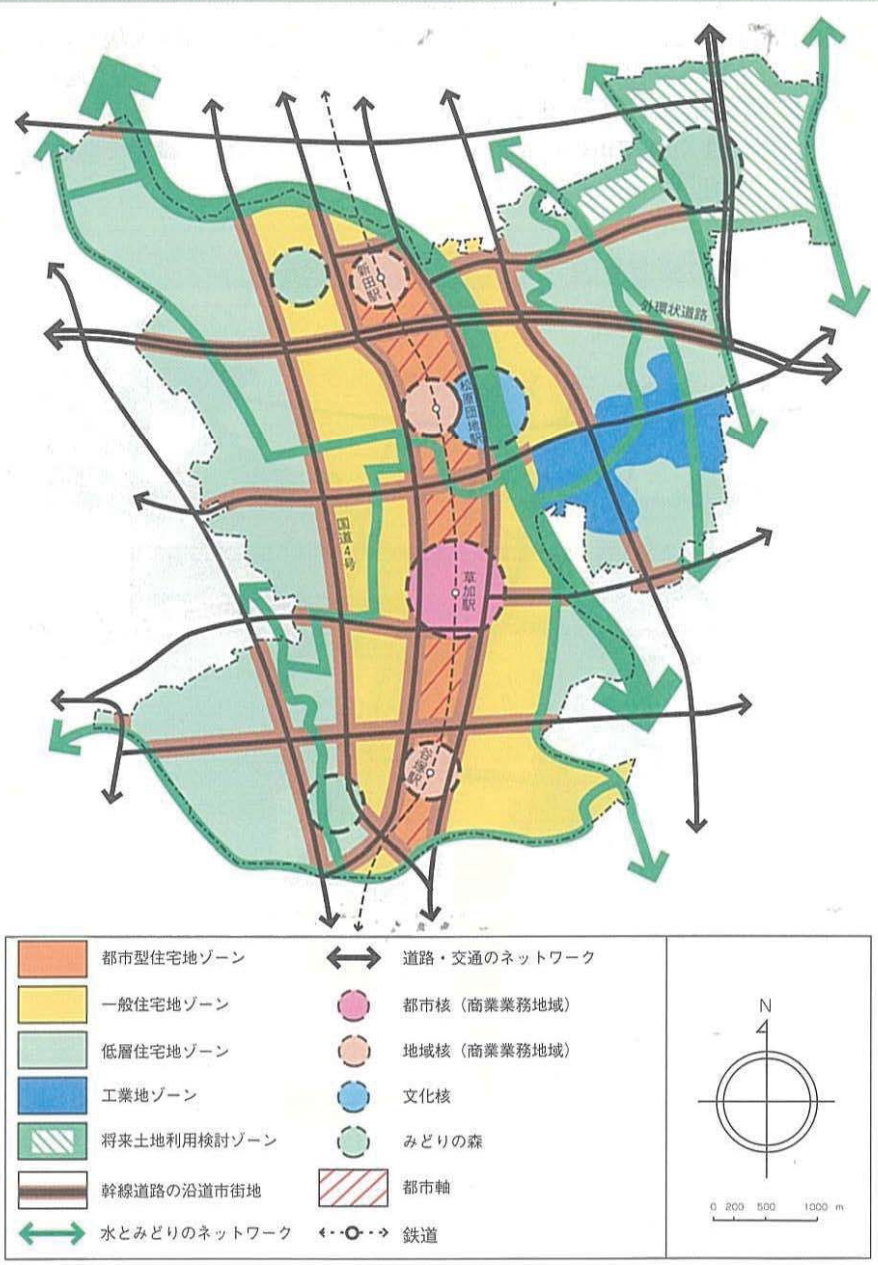
⑥将来土地利用検討ゾーンの検討

市街化区域への編入を想定し、農地を活かしたゆとりある住宅地の形成などを検討します。

⑦幹線道路の沿道市街地の誘導

幹線道路の沿道市街地においては、後背部の住宅地の環境に十分に配慮しながら、商業・業務、流通・工業など、適切な市街地の形成を誘導します。

図３　将来都市構造図



人々でにぎわう草加市の中心・草加駅